

# 平成29年度 加納高等学校 自己評価・学校関係者評価報告

## I 自己評価 【教務部】

1 学校教育目標	「21世紀における国家・社会のリーダーを育てる」 1. 大志を実現するため、学問を尊ぶ気風を広め、高い学力を養う。 2. 濃やかな感性と国際的な感覚を養うため、文化を尊重する校風をつくる。 3. 品性ある豊かな人間性を身に付けるため、高い道德観及び倫理観を培う。
2 現状の分析	▲新学習指導要領のねらいの一つである「言語活動」を取り入れた授業をどう組み立てるのかについて教科全体でさらに検討・協議を行う必要がある。 ○保護者の評価「子どもは授業に満足している」が77%から78%、「子どもの能力や習熟度にあった授業が行われている」が71%から74%と上昇した。 ○生徒の評価「専門的知識が豊富であり、授業内容に信頼できる。」は安定した評価である。 ▲授業開始時に「本時の目標」を提示し、生徒が目的意識をもって授業に取り組むことができる態勢を作り、生徒の学ぶ意欲の向上を図る。
3 学校の抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 他教科の教員が研究授業を参観できるように時間割を調整する。</li> <li>● 「本時の目標」の定着を図り、生徒が目的意識をもって授業に臨む習慣を身に付けさせる。</li> <li>● 教科会の充実を図り、「言語活動」及び「アクティブラーニング」を取り入れた授業研究を行う。</li> </ul>
4 今年度の具体的な重点目標	◇授業改善の一層の推進を図る。…力のつく授業づくりを目指す。また、生徒が自ら課題を発見し自ら考え解決していく態度を身につけることを目指す。 ・新学習指導要領の改訂の理念や趣旨を理解し、「言語活動」を取り入れた授業について各教科で研究する。 ・教科及び教科の枠を超えたグループ編成による授業研究会を実施し、指導方法等について情報交換する。 ・公開授業月間において、全職員でアクティブラーニング型の授業を実践する。 ・業務の精選を図り、授業時間数と教員が教材研究に費やせるような時間を確保する。また、授業で学力がつくよう、大学入試問題の分析と研究を行う。

### 年度目標

### 年度末(途中)評価

5 評価項目 領域・分野	6 重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	7 達成度の判断・判定基準あるいは評価指標				8 取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	9 評価 A・B・C・D	10 成果と課題	11 総合 評価
		※アンケート(保護者・生徒・教員)	指標	前年	結果				
教務部 ◇学習指導	(1) 生徒による授業評価の分析	生	専門的知識が豊富であり、授業内容に信頼できる。	90%	88%	88%	B	○授業の中で学力をつけるよう授業改善に努めている。 ▲本校入学の満足感はあるが、全職員が意識改革することで、「力がつく分かる授業」づくりが必要である。 ▲生徒の進路実現ができるような、アクティブラーニング型の授業を推進していく。	B
	(2) 公開授業・研究授業参観及び授業研究会	教	「本時の目標」を提示し、生徒が目的意識をもって授業に臨めるようにしている。	90%	81%	83%	B		
	(3) 教育課程講習会報告会	生	授業の教え方や説明が分かりやすい。	90%	85%	83%	B		
	(4) 新書読解、調査・研究・発表、テーマ研究・発表	保	この学校に入学させて良かった。	90%	95%	91%	A		

## II 学校関係者評価

実施日：平成30年 2月15日

現代の生徒には、「自ら学ぶ力」が欠如している。大学入試に向けた学力の定着を図るのも大切だが、「生きる力」を身に付けさせてほしい。また、アクティブラーニングを通して、自ら課題解決能力を身に付けさせ、課題探究学習においては、他者と議論する機会を増やしてほしい。

## 12 来年度に向けての改善方策

- ・アクティブラーニングにおける職員研修会を実施して、授業改善に努める。
- ・行事の精選により、放課後の時間の生徒への個別指導の時間を確保する。
- ・公開授業月間の積極的な参観と生徒の授業評価を分析し、生徒の実態把握に努める。

I 自己評価 【 総 務 部 】

2 現状の分析	○学校行事について、生徒・保護者ともに協力的で、各行事の運営を効率よくかつ厳粛に進めることができた。 ○会議資料の電子化が徹底されており、職員会議の紙媒体資料を減らすことができ、会議も効率よく進められた。
3 学校の抱える課題	・分掌、教科、学年、普通科、音楽科、美術科との連携を図り職員の意志疎通を図る。 ・会議資料電子化に伴い、会議の効率化を図り、データをより利用しやすい形式になった反面、資料の確認が不十分な場合もある。
4 今年度の具体的な重点目標	(1)式典・全校集会を通して、基本的な倫理観や秩序を重んじる態度を育成する。 (2)ゆめ会議かのう（学校評議員会）を通して、本校の教育活動の理解を図り、地域の人たちの意見や関心の高い事項を知って学校経営に生かす。 (3)国際交流の機会を生かして、生徒一人一人の視野を広げ、平和的で民主的な社会を実現する人材となるよう意識を高める。 (4)日本学生支援機構の奨学金制度に加えて、地域や各種団体の奨学金制度の利用推進を図る。 (5)選挙権年齢が18歳以上となり、国家社会の有為な形成者をめざす公教育の一貫として主権者教育を地歴公民科と連携して推進する。 (6)会議資料および職員必携の電子化を進め、資料をより利用しやすいものにする。

年 度 目 標					年 度 末 評 価				
5 評価項目 領域・分野	6 重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	7 達成度の判断・判定基準あるいは評価指標			8 取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	9 評価 A・B・C・D	10 成果と課題	11 総合 評価	
		※アンケート (保護者・生徒・教員)	指標	前年					結果
総務部	(1) 早期の準備と、礼法指導等を通して秩序ある式の推進	生 教	各講話等の感想・アンケート	*	*	*	○ゆめ会議かのう（学校評議員会）での学校見学を通して、本校の教育活動について、より深く理解を図ることができた。 ○今年度は、2名の留学生を受け入れ、生徒の生きたコミュニケーション能力や国際感覚を養うことができた。 ▲例年の行事・会議を踏襲していることが多く、スリム化が図れていない。	B	
	(2) 学校見学等で、評議員の方に本校の教育理念の理解を図る	教	電子化された資料の定着度	90%	100%	97%			
	(3) データアップの早期化かつ期限厳守を図り、会議前に資料を検討できるようにする。	教	式典・行事のアンケート結果	*	*	*			

II 学校関係者評価

実施日：平成30年 2月15日

評議員として、外部評価だけでなく職員アンケートが実施されていることは知らなかった。今後も外部評価と職員アンケートを活用して、学校行事の精選を図り、生徒のためになる学習指導の実践をお願いしたい。

12 来年度に向けての改善方策

・各行事等のアンケート結果や提案を次年度に生かし、スリム化できるところを少しでも見出し、生徒の指導に充てられるようにする。

I 自己評価 【 進路指導部 】

2 現状の分析	○「総合的な学習の時間」で扱う進路探求学習の内容を精選し、実施方法に改善を加えた。 ○模擬試験等の結果を分析し、生徒に働きかけることで、積極的な学習姿勢につなげた。 ▲進路探求学習が、各生徒の進路実現に直結するように、さらに改善していく。
3 学校の抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>週あたりの学習時間21時間達成率の向上を図る。</li> <li>模試等の結果分析と生徒への還元方法の工夫をする。</li> <li>入試対策期間における個別指導を、全校体制で取り組む。</li> <li>進路探求学習が、各生徒のより良い進路実現に直結するよう改善する。</li> </ul>
4 今年度の具体的な重点目標	◇事前にやるべきことを書き出して、週末3日間を計画的に過ごす習慣を身に付けさせ、家庭学習および学習習慣の確立に結び付ける。 ◇模試や各種考査の結果分析から長期・短期の到達目標を設定し、大学進学に向けた総合的な力を養成するための土台をつくる。 ◇進路探求学習を通して、望ましい勤労観、職業観の育成・深化を図る。

		年 度 目 標					年 度 末 (途中) 評 価							
5 評価項目 領域・分野	6 重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	7 達成度の判断・判定基準あるいは評価指標 ※アンケート (保護者・生徒・教員)					8 取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	9 評価 A・B・C・D	10 成果と課題	11 総合 評価				
			指標	前年	結果									
進路指導部 ◇進路指導	(1) 週末課題・自己課題一覧を活用して、週末ならびに日常の学習習慣の確立を図る。 (2) 模試の結果分析ならびに到達目標を共有し、それらに基づいた働きかけをする。 (3) 「総合的な学習の時間」の内容の見直しを行い、進路探求学習を深める機会をもたせる。	生	10月の週あたりの学習時間21時間達成率	1年	35%	26.6%	15.6%	<ul style="list-style-type: none"> <li>週末課題・自己課題一覧、週末日課表の配布</li> <li>土曜教室開放の連絡</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>▲週末課題・自己課題一覧、週末日課表や土曜教室を有効活用し、週末2日間で学習時間(10時間)の確保を図る。</li> <li>▲進路探求学習を深める機会として、公開講座等の活用を図る。</li> <li>▲基礎事項理解度に焦点をあてた模試結果分析を行い、基礎学力の充実を図る。</li> <li>○職員の協力のもと、入試対策期間における個別指導の担当希望をまとめることが出来た。</li> </ul>	B			
			保	学校は進路説明会等、保護者が必要とする進路情報を提供する場を設けている。		90%	87%					86%	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者対象進路冊子の配布</li> <li>保護者進路研修会の実施</li> </ul>	B
				生	学校は生徒に様々な(適した)進路情報を示し、生徒の可能性を引き出そうとしている。		90%					86%		
		◇国公立大現役合格者(H29 入試)	170名		170名	152名	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎事項理解度に焦点をあてた模試結果分析の実施</li> </ul>							
		◇志望上位国公立4大学現役合格者	80名	71名	76名									
		◇国公立難関大現役合格者	20名	13名	15名									

II 学校関係者評価

実施日：平成30年 2月15日

国公立大学と難関私立大学の合格者数は、進学校として外部にアピールする上で重要な要素である。少子化も進んでおり、進学実績を上げるためにも、学校として何か対策を講じる必要があると思われる。

12 来年度に向けての改善方策

- 公開講座等への積極的な参加を促す。(高大接続改革への対応)
- 基礎事項の理解度に焦点をあてた模試結果分析と、生徒への還元方法の改善。
- 総合学習の充実を図るため、担当分掌を一元化する。

# I 自己評価 【 生徒指導部 】

2 現状の分析	○交通事故件数が昨年度より約30%減少した。(3年連続の減少) ○スマホの利用マナーは、やや改善された。一方、スマホ依存が疑われる生徒が増加傾向にある。 ○人権特別ロングホームルームの実施で、生徒の人権意識を高めることができた。 ○教育相談に関し外部の専門家との連携をより密にすることができた。 ▲欠席・遅刻数が増加した。(不登校生徒が増え、全体の欠席・遅刻数が増加) ▲基本的生活習慣の確立について、新たな取り組みが必要である。
3 学校の抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>身だしなみ指導(「フォーマルウィーク」など)の継続</li> <li>学校の教育活動全体を通じた交通安全啓発活動を推進する。目標は交通事故年間20件以下。</li> <li>遅刻を減らすために余裕を持った登校と「8時25分全員着席」を学年会・HR担任及び保護者とも協力して徹底する。(基本的生活習慣の確立と遅刻防止について、家庭との連携を強化する。)</li> <li>ケータイ・スマホの使用方法等について生徒に考えさせよりよい使用法を身に付けさせる。(安全利用宣言の見直しの検討)</li> <li>教育相談活動のさらなる充実を図る。</li> </ul>
4 今年度の具体的な重点目標	◇基本的な生活習慣とモラル・マナーの定着 ・身だしなみ、8時25分登校完了(遅刻をしない)、挨拶、安全マナーなどを身に付けた品位と規律ある生徒の育成を目指す。

年 度 目 標						年 度 末 (途中) 評 価				
5 評価項目 領域・分野	6 重点目標の達成に必要な具体的取組・方策	7 達成度の判断・判定基準あるいは評価指標				8 取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	9 評価	10 成果と課題	11 総合 評価	
		※アンケート (保護者・生徒・教員)	指標	前年	結果					
生徒指導部 ◇生活指導 ◇教育相談 ◇人権教育	(1) 運動部を核としたMSリーダーズの編成	保	高校生としてふさわしい服装、頭髪等の指導をおこなっている。	90%	86%	86%	身だしなみの向上	B	B	
			生徒の遅刻数	*	1296	402 (7月末)				
	(2) 全職員による指導体制の確立	保	学校は、挨拶や遅刻防止など、基本生活習慣の育成指導を保護者と十分連携をとって進めている。	85%	80%	82%	遅刻の減少	B		
			交通事故件数	*	14	8				
	(4) PTAと連携した交通安全運動	保	学校は、子どもの安全面や衛生面に配慮し、交通安全、健康管理等の指導を行っている	90%	88%	84%	交通事故の減少	B		
			交通安全啓発活動の実施	*	3回	3回				
	(5) 職員研修会(発達障害に関するもの)	(6) 人権教育の推進	生	子どもの悩みについて担任以外の相談窓口を設け、その利用について十分知らせている。	70%	66%	66%	教育相談活動の推進		A
				悩みごとなどに親切に対応してくれる先生が多い	70%	65%	70%			
		生	いじめや差別のない学校である。	100%	69%	71%	人権教育の推進	B		

## II 学校関係者評価

実施日：平成30年 2月15日

登校の様子は、挨拶も爽やかで好感が持てる。今後も登校指導を続けてほしい。また、全職員による生徒への声掛けも継続して行い、悩みなど問題を抱えた生徒への対応を行ってほしい。

## 12 来年度に向けての改善方策

PTAと連携し、送迎マナーが守られる方策を検討する。体罰防止に関する職員研修の実施。

# I 自己評価

## 【 特活指導部 】

2 現状の分析	<p>○2年前、スポーツ大会・球技大会の服装についての見直しを行い、最近は大会にふさわしい服装で実施できている。</p> <p>○ここ数年、部活動の現状に合う様に内規変更をしてきたが、それが定着してきた。</p> <p>○年2回の保育園訪問は恒例化となったが、今年度は冬の保育園訪問と特別支援学校へのボランティアができなかった。街頭募金や高橋尚子マラソン応援ボランティアも続いている。更に今年度、加納西小に算数を教えに行くボランティアが、生徒会主催のボランティアとなり、多くの生徒が参加した。地域の評判も良く、継続して来年度も行いたい。</p> <p>○部活動月間計画書と報告書の提出がスムーズに行われるようになった。</p> <p>▲クラス増により空き教室がなく、文化系部活動の活動場所が確保できない。</p> <p>▲白梅祭・スポーツ活動における生徒の服装について、不満を持つ生徒もいる。今後も学校行事の意義について、生徒と共に考えていく必要あり。</p> <p>▲年々部活動消耗品にかかる額が大きくなっており、消耗品と備品の区別もつきにくい。生徒会部活動費と部活動後援会費の一本化が急務である。</p>
3 学校の抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>白梅祭における発表場所の再考と白梅祭期間中の暑さ対策。</li> <li>普通科・音楽科・美術科の特徴を生かした学校行事の運営。</li> <li>準備期間・練習時間(球技大会)の明確化(オンとオフの切り換えの徹底)。</li> <li>生徒会費と部活動後援会費の公正な運用。</li> <li>多くの生徒が参加できるボランティア活動の立案。</li> </ul>
4 今年度の具体的な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>加納高生としての所属意識の高揚と安全な行事運営。</li> <li>新内規と新書式【部活動】の適切な運用 (生徒会費と部活動後援会費の適切な運用)</li> <li>様々な行事を通して、自主性を育み、共に向き合う力の育成をはかる。</li> </ul>

年度目標						年度末 (途中) 評価				
5 評価項目 領域・分野	6 重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	7 達成度の判断・判定基準あるいは評価指標 ※アンケート (保護者・生徒・教員)				8 取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	9 評価 A・B・C・D	10 成果と課題	11 総合 評価	
		指標	前年	結果						
特活指導部 ◇特活指導	(1) テーマ性の追求と質の向上【学校行事】	本校の学校行事は、充実している	90%	90%	87%	B	生徒の評価は、昨年を下回っているが、保護者の評価は全ての面において上がってきている。特に部活動においては、上位の大会に出場する部が多く、予算面で苦しい状況である。学校祭に関する予算も今年度大幅に上げている。問題は、学校祭実施時期であるが、遅らせることができない以上、新たな暑さ対策を考えなければならない。	B		
	(2) 生徒の安全を考えた、活動しやすい学校環境の整備【生徒会】【学校行事】	本校は、部活動が活発である	85%	86%	80%					
		本校は、生徒会活動が活発である	70%	73%	66%					
	(3) 保育園との交流(夏/冬)、外部ボランティア活動への参加【ボランティア】	週一回の執行部会における意見交換	*	*	*					
	(4) 生徒会の全校に向けての新提案【生徒会】	ボランティア参加者のアンケートと保育園側の意見を聞く	*	*	*					
(5) 部活動に関する書式の見直し【部活動】	4月当初の部顧問会議で共通理解を図る	*	*	*	B					

# II 学校関係者評価

実施日：平成30年 2月15日

SHOW文化祭を見学したが、どの作品も若さと個性を感じた。他人に見られることで、生徒の意欲や意気込みも高まっていた。今後も学校行事を通して、仲間との絆を深め充実した学校生活を送らせてほしい。

## 12 来年度に向けての改善方策

- 学校祭の準備期間(リハーサル日程)の見直しと体育館の暑さ対策
- 白梅会館の有効利用
- 新しいボランティアへの挑戦
- 教員の負担を少しでも軽減するための、部活動に関する内規・書式の見直し

I 自己評価

【保健厚生部】

2 現状の分析	<p>▲健康診断の結果をもとに自らの生活・健康管理を行うことができる。</p> <p>○「警報訓練」をきっかけに学校生活における防災(減災)について考える機会を増やすことができた。</p> <p>▲生徒の防災意識は向上してきたので、家庭・地域の連携のため活動を増やす。</p> <p>○環境整備を目的とした大掃除を毎月1回は実施出来るよう年間計画に位置づけた。</p>
3 学校の抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康診断の事後指導への意識をさらに高める。</li> <li>生徒総務委員会を中心に防災意識を高める活動を実施し、防災・備蓄品の整備をさらに進める。</li> <li>校内各箇所の清掃ポイントを明確にし、不用品の処分など周辺を整理して安全な環境を保つ。</li> </ul>
4 今年度の具体的な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇健康や安全を客観的に評価し改善する。</li> <li>◇事故や災害などに対する、防災意識を高める。</li> <li>◇常に校内美化の意識を持ち、清掃等の徹底と生活環境の整備をする。</li> </ul>

年 度 目 標			年 度 末 (途中) 評 価							
5 評価項目 領域・分野	6 重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	7 達成度の判断・判定基準あるいは評価指標 ※アンケート(保護者・生徒・職員)			8 取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	9 評価 A・B・C・D	10 成果と課題	11 総合 評価		
			指標	前年	結果					
保健厚生部	(1) 自らの健康・安全への意識を高める。	保	生徒の安全面や衛生面に考慮し、交通事故や健康管理などの指導をしている。	90%	88%	84%	定期健康診断を基にした健康指導(受診勧告等)	B	<p>▲健康診断で校医から助言を受けた生徒が事後受診など健康管理への意識を高めるような指導を工夫する。</p> <p>○在校時の地震への対応については意識が高くなってきた。</p> <p>・その他の非常変災時への対応ができるようにする。</p> <p>▲全校生徒が校内をきれいに保つ意識を持てるようにする。</p>	B
	(2) 全職員で安全点検し、危険箇所等の早期発見と改善への対応。	保	生徒に地震や台風の場合の対応マニュアルをはっきり示している	90%	89%	95%	非常変災時の対応について学校と家庭の連携。	A		
	(3) 校内での地震対応を生徒に周知し、訓練を繰り返し実施する		時間や場所によらない警報訓練による校内の危険や避難等への対応を周知				毎月のシェークアウト訓練が定着した。危険箇所の改善。	A		
	(4) 変災時に対する備蓄の検討。		生徒用備蓄および緊急対応備品を確認							
		生	本校は、清掃が行き届いており校内がきれいである。	70%	60%	62%	大掃除では清掃のポイントの明示。	B		

II 学校関係者評価

実施日：平成30年 2月15日

安全管理という点で、十分な対策が講じられていると思う。校内だけでなく、登下校においても地域の安全マップを活用し、安心して登下校ができるよう、地域の住民として連携をとっていききたい。

12 来年度に向けての改善方策

- ・各自の健康への関心を高めるような指導の検討。
- ・日々の清掃や大掃除の方法について全校(生徒・職員)で工夫、対応できるような提案。

# I 自己評価 【図書部】

2 現状の分析	○生徒が自分たちでアイデアを出し合い、白梅祭や読書旬間などに意欲的に取り組んだ。 ○朝の読書は一定の成果が得られた。 ▲図書室の利用者数は昨年度より減少した。 ▲広報活動の活性化。
3 学校の抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度に引き続き、教科・分掌・学年との連携を図る。</li> <li>生徒が少しでも本に興味を持てるように、広報活動をより一層、積極的に行う。</li> <li>読書指導法の研究を行う。</li> </ul>
4 今年度の具体的な重点目標	◇自ら本を手に取り、意欲的に読書活動を行う生徒を育成する。 ・各教科、分掌、学年と連携を図る。 ・委員会活動の活性化を図る。

年 度 目 標						年 度 末 (途中) 評 価				
5 評価項目 領域・分野	6 重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	7 達成度の判断・判定基準あるいは評価指標 ※アンケート(保護者・生徒・教員)				8 取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	9 評価 A・B・C・D	10 成果と課題	11 総合 評価	
		指標	前年	結果						
図書部	(1) 朝の読書や「総合的な学習の時間」を効果的に利用する。 (2) 年間を通した委員会活動の計画 (3) 学級文庫の設置をする。	生	朝読書が有意義であった	90%	97%	92%	B	○学級文庫の全クラスへの設置を行った。本が身近にあることで気軽に本を手取るようになった生徒も多く、好評であった。 ▲一人あたりの貸出冊数は2.22冊(4~9月)であった。 ▲白梅祭の20秒PRに不備があった。	B	
		教	生徒は、読書がきっかけとなり、学習の視野を広げようとしている。	80%	83%	86%				
			図書貸出冊数(4~9月まで)		3013冊	2609冊				
		生	生徒アンケートの結果							A

## II 学校関係者評価

実施日：平成30年 2月15日

最近の高校生は、読書をする機会が減っている。読書によって勉強以外の知識も得ることができるので、朝読書の取り組みは継続して実施してほしい。職員アンケートでは、「読書は学習の視野を広げている。」という項目の評価が低く、生徒と本を読み合うなど、より一層職員自身が読書に対する意識を高めてほしい。

## 12 来年度に向けての改善方策

・現在の所蔵図書数は図書館の収容能力の限界を超えかけている。現在、図書が隙間なく差し込まれ、図書の表紙が生徒の目に触れない状態である。古い図書の除籍をこれまで以上にすすめるとともに、館内に強力な武器である図書の表紙を展示できるよう工夫をし、生徒の読書意欲を喚起しつつ、貸出冊数も伸ばしていく。